



創学舎 百人一首大会報告

No.464

六月二十二日(土)、創学舎では小学生対象の「百人一首大会」が行われました。熱い戦いを見せてくれた生徒の皆さん、送迎や声援などでご協力いただいた保護者の皆さまにはこの場を借りて御礼申し上げます。



ところで、皆さんは百人一首と言われて真っ先に何を思い浮かべますか。私は『ちはやふる』という漫画です。なぜなら私は、この漫画を初巻から最終巻まで五十冊、全て読みつくしているからです。

この漫画では、登場人物の心情や状況を百人一首の歌になぞらえています。例えば、それぞれの道を歩むことになったチーム三人の心を繋いだ歌「瀬をはやみ岩にせかるる滝川のわかれても末に逢はむとぞ思ふ」。この歌では、今は大切な人と分かれても、いつかきつと逢おうという思いを、岩にせき止められる急流が二つに分かれてもまた一つになる様子に喩えています。また、主人公に想いを寄せる幼馴染の、先の見えない恋筋が重なる歌「由良のとを渡る舟人かぢを絶え行方も知らぬ恋の道かな」「かぢ」とは船を漕ぐための道具です。

さらに、そんな彼に対して叶わない恋をする後輩少女に寄り添う歌、「かくとだにえやは伊吹のさしも草さしも知らじな燃ゆる思ひを」。歌意は、「ましてや伊吹山のさしも草のように燃える様な思いを、貴方はご存じないのでしょね。」……と、語りだしたらキリがありませんが、物語はもちろん、登場人物を優しく支える百人一首の表現の数々に感動します。

さて、ここまで長く語ってしまいましたが、私が伝えたいことは「興味を持つのはどこからでもいい」ということです。

実際、百人一首に触れる機会はそう多くありません。しかし、一度そこに辿り着くと、心情という目に見えないものを、自然などの目に見えるものに喩えた美しい感性と、短い言葉に込められている巧みな表現が私たちを待っています。昔の歌と聞くと固いイメージがあると思いますが、人や自然の美しさを想う心の在り方は昔も今も一緒なのです。

是非、この百人一首大会もきつかけの一つにしてください。皆さんが初めて取った札はどんな歌でしたか。勝敗を分けた最後の一枚は何でしたか。その歌の意味を知っていますか。楽しさや嬉しさから覚えた歌、悲しさや悔しさから覚えた歌、ただ語感が面白くて覚えた歌、色々あると思います。

ちなみに私が好きな歌は二つあり、一つ目は「君がため惜しからざりし命さへながくもがなと思ひけるかな」です。歌意は「あなたに逢うためなら死んでもかまわないと思っていましたが、あなたと逢えた今、いつまでも生きていたいと思うようになりましした。」……なんてロマンチック！二つ目は「住(スミ)の江の岸に寄る波よるさへや夢の通ひ路人目よくらむ」です。理由は、名前(旧

姓)が「スミ」だからです。私とかるた取りをしたら、この札だけは絶対に私が取ります。

今大会ではすべて個人戦でかるた取りを行いました。私は読み手として皆さんの様子をうかがっていました。秋の田の(第一首目!)「ちはやぶる(やはり定番!)」「このたびは(神のまにまに!)」「うかりける(ウツカリハゲ!)」この辺りが皆さんの得意札だった印象です。他にも、一字決まり(一文字目だけを聞いて取れる札)の「むすめふさほせ」を知っている生徒もいました。どの場所も一喜一憂、大盛り上がりでした。

そして、すべての試合が終わったところで、すぐさま今大会の受賞者を発表……と言いたいところですが、集計準備に時間を要するため、この間に〇×クイズを行いました。オリンピッククイズにちなんで、スポーツの世界記録問題です。当日の問題を少し紹介しますね。「走り幅跳びの世界記録保持者は教室の端から端までを飛び越えられるか?」この問題では、皆で教室の端から端まで歩いて実際に長さを確かめました。他にも砲丸投げの問題では、実際に本物の砲丸と同じくらいの重さの袋を皆さんに持ってもらうなど、隙間時間でスポーツ選手の凄さを体感できたかと思えます。その後、集計の準備も整ったところで、受賞者を発表いたしました。全員がドキドキして息を呑んだあの瞬間は忘れられません。



全三試合の取り札の合計枚数が多い人から最優秀賞、優秀賞、敢闘賞となります。

- 【最優秀賞(第一位)】 〆図書カード三千円分贈呈 甲 あかりさん (流山市立小山小学校)
- 【優秀賞(第二位)】 〆図書カード二千円分贈呈 井上 優仁くん (我孫子市立根戸小学校)
- 【敢闘賞(第三位)】 〆図書カード千円分贈呈 佐々木 駿斗くん (流山市立小山小学校)

受賞された皆さん、おめでとうございます。なお、ささやかではございますが、今大会に出場してくださった方々全員に参加賞を贈呈しております。皆さんがああ白熱した試合をいつでも思いつける、素敵なお品になれば幸いです。

また、百人一首大会に向けて四月・五月・六月は授業でもかるた取りを行いました。大会当日には参加できなかった生徒の皆さんも、そこで疾風怒濤の熱き戦いを見せてくれました。何か良い歌との出会いはありましたか?

最後に、小学四年生から中学二年生を対象に、毎回の授業で百人一首を一つ覚える、という宿題を出しています。たくさんさんのきつかけの中から、良いものに触れ、自分と一番の友だちになれそうな歌を見つけてみてくださいね。(増子)

最近思っていること

先日、娘次女二十歳から「誕生日に欲しいものはない?」と聞かれた。私が現在ほしいものは4Kのテレビなのだが、まさかテレビをお願いするわけにもいかない。しばらく考えた後、面白そうなガチャガチャ(カプセルトイのこと)を依頼した。そもそも娘たちはよくガチャガチャをする。一回三百円から高いものだと数千円のものまである。

私が子供の時代は二十円くらいだったことを考えると、とても高くてもやる気にならない。普段は自分でではやらないので、この際依頼してみた。後日「はい」とカプセルを渡された。私の好きなガンダムの模型(ガンダム Mk II)であった。

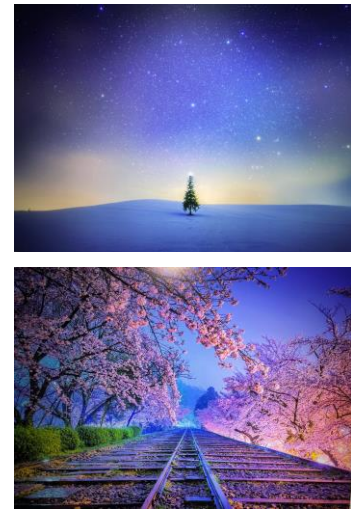
最近、また「はい」とカプセルを渡された。今度もガンダムの模型(ギラドーガ)だった。どうやら父の日用にガチャガチャを探して見て見つけたらしい。今度はそんなに高くないよとのこと。なんと前回のものは千五百円もするらしい。驚きである。二つともリビングに飾つてある。

あれは、ゴールデンウィークあたりであっただろうか。テレビを見ていると新海誠の映画のような写真が撮れる場所があるという。それほど遠くない埼玉県だ。妻にその話をすると行ってみようということになり、写真好きの娘(長女一十二歳)をつれて行ってきた。場所は『角川武蔵野ミュージアム』行って分かったことだが、以前紅白で、本棚で囲まれた場所で YASOBI が歌を歌っていたところであった。ちなみに新海誠風写真は全く撮れなかった。



ある日、だからだとテレビを見ていたら、とある写真集が紹介されていた。星や月などの夜空や風景の写真集である。なかなかのものであったのでアマゾンで購入しようかと……。そのとき、妻が買うより見た方がよくないかと言ってきた。写真集の発売と同時に写真の展覧会が開かれていたのだ。早速行ってきた。CGではないかと疑うレベルの写真がずらり、フラッシュを焚かなければ写真に撮つてよいとのこと、沢山撮ってきた。

終わりにお土産コーナー。結局写真集は購入せず、かわりにジグソーパズルを購入。なかなかの感動であったため、余韻は冷めずその後メルカリで二つ追加購入。作られるのを待っている。この写真は『KAGAYA』という。



最近あった出来事をつらつらと書いてきたが、最近思うこと。私の生活も変わってきたなど。以前であれば、テレビで見たところで行動には移さなかったと思う。人生の残りが少なくなってきたと感じ始めたからか。または、子育ても一段落して生活が落ち着いてきたからか。いずれにせよ心境の変化があったのである。創学舎に通っている生徒の保護者の方の多くは、子育て真っ最中であろう。子供に文句を言いながら、あれやこれやと世話を焼く。自分の時間が取れないなどと思いつつながら。そんな大変な生活も気づいてみればアツという間。今は大変でも、それも思い出に変わる日がくる。

これからはどんなことが起こるのであるのか。まだまだ生きるつもりであるから、いろいろなこととが待っているであろう。楽しみである。(松永)

私の勉強術 その四 〜頭も体も使って覚えよう〜

私はここぞというときに力が発揮できないタイプでした。運動会のダンスも音楽発表会の演奏も、予行練習ではちゃんとできていたのに、本番になるといつも緊張して間違えて、なんだか後味が悪い形で終わってしまいます。なぜか、本番になると、頭が真っ白になってしまうのです。



だから、きつと定期テストも緊張して、頭が真っ白になるにちがいがなく、「全然答案が埋まんなかったらどうしよう」という不安でいっぱいでした。というわけで、「頭が真っ白になっても、なんとか答案用紙が埋まるようにしたい。」というのが、私の定期テストに臨む際の目標でした。

特に心配なのが、理科と社会。「あれ、なんだっけ。」とか「勉強したのに出てこない。」というところがなように、体に覚えさせる作戦をたてました。理科や社会のワークは、解答欄と問題が別意に用意されていたり、解答冊子が赤字で書いてあったりするものがあります。赤シートで隠して、まずは声に出して答える。書いて覚えるよりワーク一周終わる時間が早くて済みます。(もちろん問題にマルとバツを付けます。)

「よし、今日も勉強を始めるぞ!」というその日の勉強の始めに、声に出して理科と社会のワークを一周やります。声に出してやると、「勉強やりたくないな。」という気持ちを忘れて、視覚、聴覚

口をフル活用して、目の前のやるべきことに没頭できます。あと、単純に眠気覚ましになります。そのあと、時間をおいてから、しっかりノートに書いて、問題を解きます。用語を覚えてから、漢字で書けるかを確認するという順番は、頭に入ってきてやすかったです。一周やるたび、マルが増えていくのは嬉しいものです。私の中学校はテスト一週間前から部活動停止だったので、一週間毎日勉強のスタートは、「声に出してワークをやる」でした。

また、「どうしても覚えられない、不安だな」と思うページには付箋を貼って、直前に見かえすようにしていました。全科目、テスト前の休憩時間は、トイレに行つてからこの付箋を貼ったページを見るようにしていました。不安だからぎりぎりまでなんとか頭に叩き込んでいました。結果、「三回連続で順位を下げたら退部。」という厳しい部則がある部活動を、三年間やり遂げることができました。

ちなみに、この「緊張してうまく力を発揮できない」という思い込みは、部活動で大会の決勝戦で三回ほど勝つて優勝したら、「緊張しながらも力を発揮できる」という自信に変わりました。部活動を通して得た、一番大きなものかもしれません。「学校のワークをしっかり定着させる」という

点は、創学舎の定期テストの勉強法と似ているところがありますよね。みなさんは創学舎で定期テストの勉強法を教してもらつて、テスト後に反省会をして、次にどう生かすか考える機会があるのは、とてもうらやましいです。これからは創学舎は勉強の面でも気持ちの面でもサポートしていくので、ぜひ相談してください。(富田)